



(作品20)

### 20 中国古印

20類のうち 銅製 中国・後漢時代(1~3世紀)  
大谷大学博物館蔵  
大谷瑩誠が蒐集した中国後漢時代の古印。瑩誠は東洋関係の資料の蒐集を行っており、そのコレクションは「禿庵文庫」として当館に所蔵されている。そのなかには古印をはじめ、封泥、硯、拓本など重要文化財を含む貴重な資料が多数存在する。

### 21 『近世説美少年録』

5冊のうち 紙本墨書  
文政11~12年(1828~1829) 大谷大学博物館蔵  
『南総里見八犬伝』などで知られる、曲亭(滝沢)馬琴の作品『近世説美少年録』の自筆草稿本。戦国時代の武将毛利元就と陶晴賢に擬した美少年と悪少年の対立を描く物語。馬琴による推敲の過程がよくわかる。本品も「禿庵文庫」の一つである。

### 22 大谷瑩誠墨蹟

1幅 紙本墨書 昭和時代(20世紀) 大谷大学博物館蔵  
大谷瑩誠の書。「真如一実之信海(真如一実の信海)」とは、浄土真宗の宗祖親鸞の著作「教行信証」信巻の文である。瑩誠の薫陶を受けた第18代学長野上俊静は、その書に「気品のあるみごとなものである。それは、天性によるというよりも、よく習得されたところからできた格調たかいものである」と評している。

### 23 山口益肖像

1面 油彩・キャンパス 高光一也筆  
昭和時代(20世紀) 大谷大学蔵  
第15代学長山口益(在任期間:1950~1958)の肖像。山口は大谷大学所蔵の北京版チベット大蔵經に刺激を受けて、サンスクリット語・チベット語・漢語との対照研究につとめた。昭和2年(1927)にはフランスへ留学、インド哲学・仏教学を研鑽し、帰国後は日本を代表する仏教学者として活躍した。

### 24 山口益墨蹟

1幅 紙本墨書 大正~昭和時代(20世紀)  
大谷大学博物館蔵  
山口益の書。「華嚴経」の一節「信為道元功德母(信は道の元、功德の母なり)」を記したもの。うたがいがなき真実の信心こそが悟りの根本であり功德を生む母であるという意味。

### 25 正親含英肖像

1面 油彩・キャンパス 吉田達磨筆 昭和時代(20世紀)  
大谷大学蔵  
第16代学長正親含英(在任期間:1958~1961)の肖像。正親は、大正13年(1924)真宗大谷大学を卒業し、大正15年(1926)より教授を務めた。

### 26 正親含英墨蹟

1幅 紙本墨書 大正~昭和時代(20世紀)  
大谷大学博物館蔵  
正親含英の書。「白雲一片去悠悠(白雲一片去りて悠悠)」とは、中国唐代に活躍した詩人張若虚の代表作「春江花月夜」の一節。長江の夜景を詠ったもので、白い雲がひとひら遙かかなたへと去っていく様子を詠んでいる。

### 27 曾我量深肖像

1面 油彩・キャンパス 高光一也筆  
昭和37年(1962) 大谷大学蔵  
第17代学長曾我量深(在任期間:1961~1967)の肖像。曾我は明治36年(1903)に清沢満之が結成した浩々洞に入り、翌年には真宗大学教授となる。後に仏教雑誌「精神界」の編集担当となるなど、清沢の教学を継承した近代学の大成者として評される。

### 28 曾我量深墨蹟

1幅 紙本墨書 大正~昭和時代(20世紀)  
大谷大学博物館蔵  
曾我量深の書。「至徳風静」は、親鸞の著作「教行信証」行巻の一節「至徳の風静かに衆禍の波転ず」からとられた文。至徳とはこの上ない徳ということで念仏をさし、念仏のはたらきによって静かな世界に至ることができるという意味。

### 29 安藤俊雄肖像

1面 油彩・キャンパス 下村良之介筆  
昭和53年(1978) 大谷大学蔵  
第19代学長安藤俊雄(在任期間:1970~1973)の肖像。安藤は天台学を専門とし、特に中国天台の研究にすぐれた業績を残した。昭和45年(1970)学長に就任し、昭和48年(1973)在職中に急逝。本品は当時短期大学部の教授であった下村良之介(1923~1998)の筆になる。

### 30 安藤俊雄自筆草稿

1冊 紙本インク書 昭和47年(1972)  
大谷大学博物館蔵  
安藤俊雄の自筆草稿。『浄土の諸問題』(大谷大学真宗学総合研究班編「研究紀要」第1号)に寄せた発刊の辞。200字詰めの原稿用紙6枚にわたり、真宗学の由来や課題が述べられている。

(作品25)  
山口益(1895~1976)



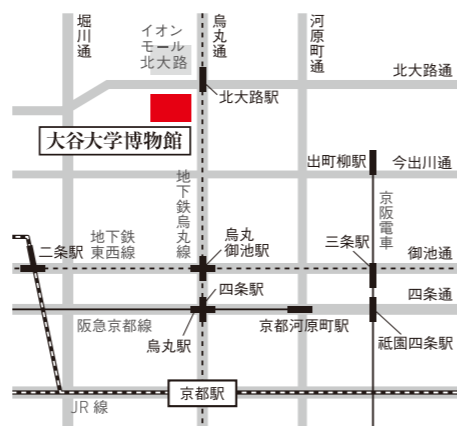
(作品25)  
正親含英(1895~1969)



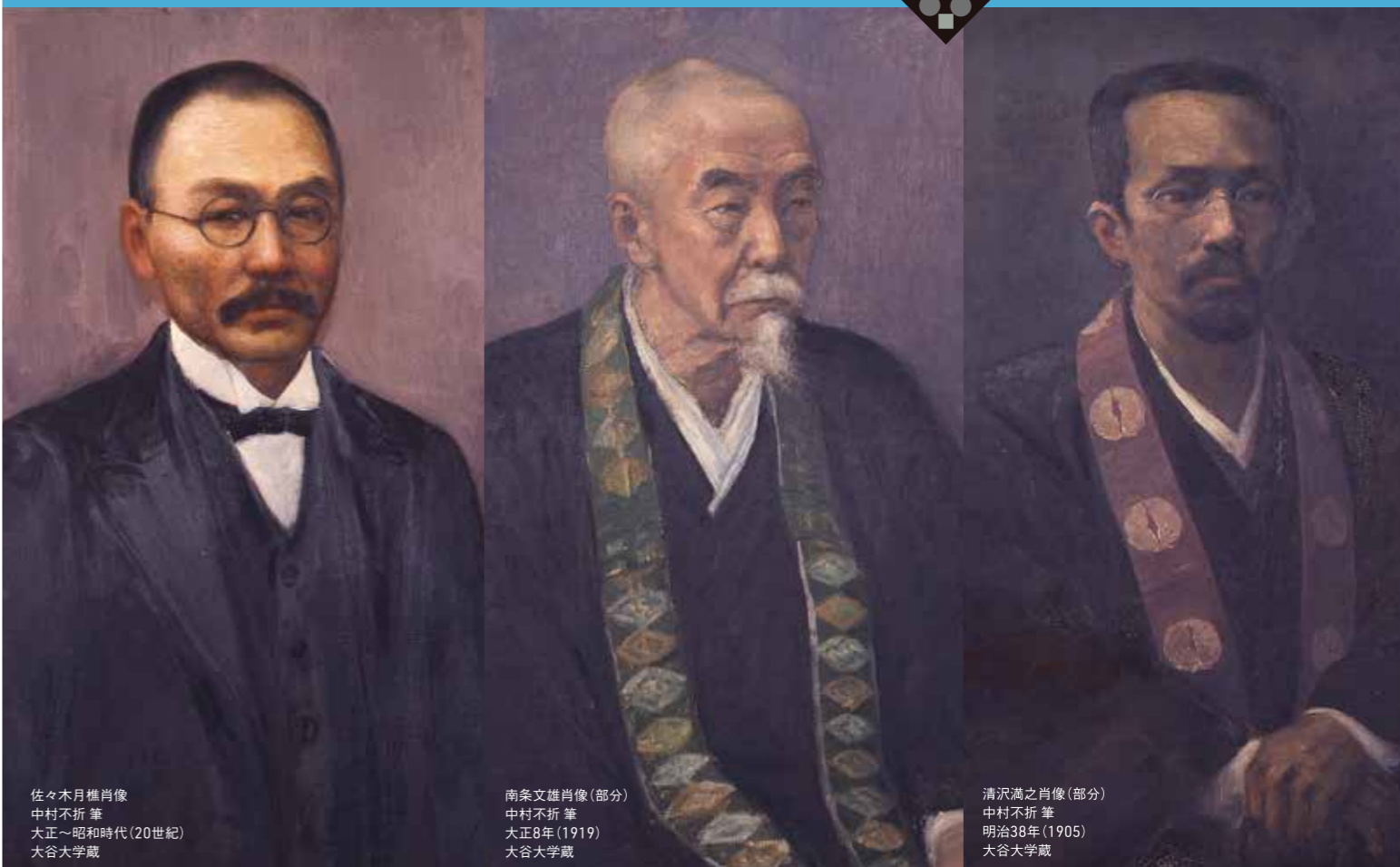
(作品27)  
曾我量深(1875~1971)



(作品29)  
安藤俊雄(1909~1973)



大谷大学のあゆみ  
PORTRAITS OF PAST PRESIDENTS OF OTANI UNIVERSITY  
2025年度 春季企画展  
2025 4 / 1 TUE. ~ 5 / 10 SAT.  
「開催時間」10時から17時(入館は16時30分まで)  
「休館日」日・月・祝(ただし4月28日(月)は開館)  
「主催」大谷大学 「後援」エフエム京都  
肖像 学長の 歴代  
昭和・大正・明治  
大谷大学博物館  
Otani University Museum  
FREE ADMISSION  
観覧料 無料



佐々木月樵肖像  
中村不折筆  
大正~昭和時代(20世紀)  
大谷大学蔵

南条文雄肖像(部分)  
中村不折筆  
大正8年(1919)  
大谷大学蔵

清沢満之肖像(部分)  
中村不折筆  
明治38年(1905)  
大谷大学蔵

大谷大学 京都・大学ミュージアム連携  
次回の展覧会 2025年度夏季企画展 念仏申さるべし一戦国社会と真宗 2025年6月3日(火)~8月3日(土)

大谷大学博物館 〒603-8143 京都市北区小山上総町 警流館1F Tel.075-411-8483 Fax.075-411-8146 https://www.otani.ac.jp/kyo\_kikan/museum/



# 歴代学長の肖像

明治・大正・昭和

大谷大学は明治34年(1901)に東京巢鴨で開学した真宗大学にはじまり、大正2年(1913)には京都市小山の地に移転し、現在に至ります。本展覧会では、明治・大正・昭和の歴代学長の肖像と、それぞれの学問・研究に関する作品を紹介します。学長は、初代学監(学長)清沢満之から現在まで29代を数えます。その肖像は、学恩を受けた人びとの感謝の意と師を懐かしみ顕彰する思いから制作されたものです。いずれも当時交流のあった画家によって描かれており、往時は旧講堂に掛けられていました。これらの肖像を通じて、大谷大学の歴史と大学の発展のために力を尽くした方々の思いに触れていただければ幸いです。また本年は、大谷大学の建学の精神として位置づけられる「大谷大学樹立の精神」が、第3代学長佐々木月樵によって大正14年(1925)に発表されてから100周年を迎えます。そこにこめられた願いにも触れていただきたいと思います。

## 1 清沢満之肖像

1面 油彩・キャンパス 中村不折筆  
明治38年(1905) 大谷大学蔵

初代学長清沢満之(在任期間:1901~1902)の肖像。清沢は東京帝国大学で宗教哲学を学んだ。代表的著作『宗教哲学骸骨』は、明治26年(1893)のシカゴ万国宗教大会で英訳され好評を博した。また、雑誌『教界時言』の発刊や私塾浩々洞の結成など、宗門改革や人材の養成に尽力した人物としても知られる。

## 2 「我は此の如く如来を信ず」(我信念)

10葉 紙本インク書 明治36年(1903)  
大谷大学博物館蔵

清沢満之の絶筆で、清沢の宗教的自覚の頂点を表す論考。誠実に生きようとするがゆえに悪戦苦闘し、身動きがとれなくなっていた清沢をして、虚心平氣にこの世界に生死することができる自己へと転ずる働きが清沢にとっての「如来」であったという。



(作品2)

## 3 「精神界」

1冊 紙本活版 明治42年(1909) 大谷大学図書館蔵

清沢満之が結成した浩々洞が発刊した雑誌。明治34年~大正8年(1901~1919)に刊行されていた。仏教の真意を平易な言葉で、一般の人に伝えることを願いとして刊行された。装画は清沢らの肖像を描いた中村不折のデザイン、表題の三文字は中国初唐の三大書家の一人褚遂良の書から採字されたもの。

## 4 「臘扇記」

2冊のうち 複製(原本:紙本墨書)  
明治32年(1899) 大谷大学図書館蔵

清沢満之の自筆の日記。明治31年(1898)8月15日から翌年4月5日にかけて記されたもの。「臘扇」とは「無用のもの」という自戒の言葉であり、失意と煩累の中で日々の出来事とその時々去来した思想や信念が吐露されている。原本は清沢が入寺した西方寺(愛知県)に所蔵されている。

## 8 佐々木月樵肖像

1面 油彩・キャンパス 中村不折筆  
大正~昭和時代(20世紀) 大谷大学蔵

第3代学長佐々木月樵(在任期間:1924~1926)の肖像。佐々木は明治33年(1900)に真宗大学(大谷大学の前身)を卒業し、清沢満之の浩々洞結成に加わり『精神界』発刊にも尽力した。また、清沢の紹介により真宗大学の講師を務め、後には教授となる。大正10年(1921)には大正自由主義教育運動の中心的人物であった沢柳政太郎らと欧米の教育・宗教事情を視察している。

## 9 佐々木月樵墨蹟

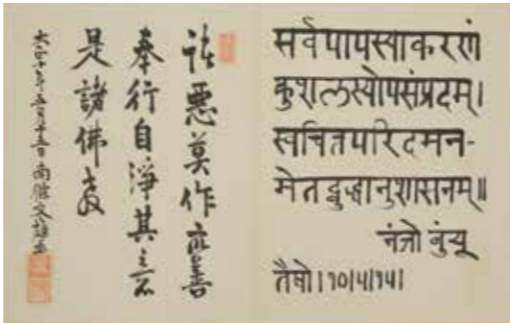
1幅 紙本墨書 明治~大正時代(19~20世紀)  
大谷大学博物館蔵

佐々木月樵の書。中国浄土教の高僧善導の著作『法事讃』の一節「從仏遣還帰自然(仏に従い道還し自然に帰す)」を記したのも。

## 7 「碩果航西詩帖」

1帖 紙本墨書 大正10年(1921) 大谷大学博物館蔵

南条文雄が、明治9年~17年(1876~1884)のイギリス留学中に作成した漢詩の中から20首を選び手書きした詩帖。碩果は南条の号。大きい果実を意味する言葉で、生地の大垣(岐阜県)にちなんでいる。



(作品7)

## 5 南条文雄肖像

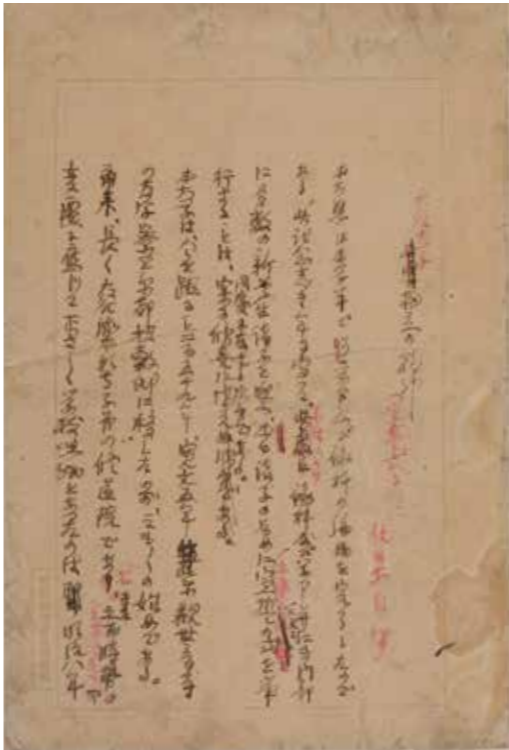
1面 油彩・キャンパス 中村不折筆  
大正8年(1919) 大谷大学蔵

第2代学長南条文雄(在任期間:1903~1911・1914~1923)の肖像。後に第3代学長となる佐々木月樵の勧めにより南条の古稀(数え年70歳)を記念して描かれたもの。南条はサンスクリット(梵語)の研究者として知られ、明治21年(1888)には日本最初の文学博士号受領者の一人となっている。

## 6 南条文雄墨蹟

1幅 紙本墨書 大正10年(1921) 大谷大学博物館蔵

南条文雄の書。南条は数多くの墨蹟を残しており、本品もその一つ。「端心正意光明在朽林頑石雨露均」と書されている。「端心正意(心を端しくし意を正しくして)」は「仏説無量寿経」の文である。



大谷大学樹立の精神 宣誓式に於て 佐々木月樵 本大学は本学年で以て学部及び予科の編成を完了したので、ある。此記念すべき年に當つて予は今日予科 学部并に専門部にて多数の新学生諸子を迎へ本日諸子の爲めに本講堂に於て、宣誓の式を挙/行することは、同慶に存する次第である。/本大学は、今を距ること二百五十九年、寛文五年筑紫観世音寺/の大学寮を京都枳殻邸に移したのが、そも、の始めである。/爾來、長く大谷派本願寺子弟の修道院であつた。今この修道院が時勢の/変遷に応じて正さしく学校組織となつたのは明治八年

## 10 「大谷大学樹立の精神」

1冊 紙本インク書 大正14年(1925)  
大谷大学博物館蔵

大正14年(1925)の入学宣誓式における佐々木月樵の告辞の自筆原稿。220字詰め原稿用紙17枚にわたる。佐々木はこのなかで、仏教の学界への解放、教育を通じた仏教の普及、宗教的人格の陶冶という大谷大学の目指す三つの目標を示し、建学の理念を表明した。

## 11 村上专精肖像

1面 油彩・キャンパス 白滝幾之助筆  
昭和時代(20世紀) 大谷大学蔵

第4代学長村上专精(在任期間:1926~1928)の肖像。村上はインド哲学の研究者として曹洞宗大学林(現駒澤大学)・哲学館(現東洋大学)・東京帝国大学(現東京大学)の講師などを歴任する傍ら、『大日本仏教史』を刊行するなど仏教史研究の道を開いた。また、明治34年(1901)に提唱した「大乘仏教非仏説」は仏教界に一大旋風を起こした。

## 12 村上专精墨蹟

1幅 絹本墨書 大正4年(1915) 大谷大学博物館蔵

村上专精の書。中国清代前期の詩人である屈復の五言絶句を記したもので、「百金買駿馬 千金買美人 万金買高爵 何処買青春」とある。「速く走る馬や美人や高い地位は相応の金を出せば得られるが、青春はどこで買う事が出来るのか」というもので、青春の大切さを詠った詩。



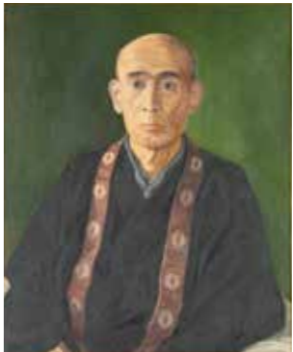
(作品11)  
村上专精(1851~1929)

制作された肖像画

学恩をうけた感謝の意、師を懐かしみ顕彰する思いから



(作品13)  
稲葉昌丸(1865~1944)



(作品18)  
関根仁応(1868~1943)



(作品16)  
上杉文秀(1867~1936)



(作品19)  
大谷瑩誠(1878~1948)

## 13 稲葉昌丸肖像

1面 油彩・キャンパス 須田国太郎筆  
昭和8年(1933) 大谷大学蔵

第5代学長稲葉昌丸(在任期間:1928~1931)の肖像。稲葉は明治22年(1889)に25歳で京都府尋常中学(現大谷高校)校長に就任するなど人材の育成に携わる一方で、清沢満之らとともに東本願寺の寺務改革運動にも参加した。晩年には本願寺第8代蓮如の史的研究に没頭し多くの業績を残している。

## 14 「蓮如上人行実」原稿

3冊のうち 紙本インク書 昭和時代(20世紀)  
大谷大学博物館蔵

稲葉昌丸が編集した、本願寺第8代蓮如の言行に関する記録の史料集『蓮如上人行実』の原稿。昭和3年(1928)に出版されて以来、今に至るまで蓮如研究の史料集として重要な役割を担っている。

## 15 稲葉昌丸墨蹟

1幅 紙本墨書 昭和時代(20世紀) 大谷大学博物館蔵

稲葉昌丸の書。「踰踏於城市紛鬧之衝 不知春秋之偉 遣還於田園曠曠之地 実見化工之無窮」とは、騒がしい世間(城市紛鬧)のなかで気兼ね(踰踏)しているならば、歳月の大切さなどを知ることできないが、田園などの広々としたところを歩けば大自然の摂理(化工)の偉大さ(無窮)に出会えるという意味。

## 16 上杉文秀肖像

1面 油彩・キャンパス 須田国太郎筆  
昭和10年(1935) 大谷大学蔵

第6代学長上杉文秀(在任期間:1931~1934)の

肖像。上杉は大谷大学の前身である真宗大学で山田文昭(仏教史学)・楠潜龍(真宗学)らに学んだ。明治34年(1901)に真宗大学教授となり、その後、京都帝国大学(現京都大学)などの講師も歴任した。

## 17 上杉文秀墨蹟

1幅 紙本墨書 昭和5年(1930) 大谷大学博物館蔵

上杉文秀の書。真宗で七高僧の一人に数えられる中国浄土教の高僧善導の著書『往生礼讃』の偈文「徳水分流尋宝樹 聞波觀楽証恬怕 寄言有縁同行者 努力翻迷還本家」を記したのも。上杉は昭和5年の夏安居で『往生礼讃』を講義している。

## 18 関根仁応肖像

1面 油彩・キャンパス 黒田重太郎筆  
昭和19年(1944) 大谷大学蔵

第11代学長関根仁応(在任期間:1941~1943)の肖像。関根は真宗大学学生であった明治29年(1896)、清沢満之らの東本願寺寺務改革運動に参加して退学処分となるが、その後復学し、昭和11年(1936)からは大谷派宗務総長も務めた。

## 19 大谷瑩誠肖像

1面 油彩・キャンパス 太田喜二郎筆  
昭和24年(1949) 大谷大学蔵

第13代学長大谷瑩誠(在任期間:1944~1948)の肖像。大谷は東本願寺第22代現如(大谷光瑩)の次男。京都帝国大学で内藤湖南に師事し東洋学を修め、大正13年(1924)から2年間フランスへ留学し、中国古文書とくに敦煌古文獻の研究に従事した。